



木木

千葉県 TEACCH プログラム研究会
2021年10月1日 (金) 第111号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部
事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL 043-227-8557
ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

第3回 連続セミナー

「評価から支援へ」

NPO法人 自閉症 e サービス理事長
中山 清司 氏



冒頭に、例えば、眼科で診断を受けて、視力検査をする。→どのくらいの視力が分かる。→【評価】視力に合わせてどんな眼鏡が合うのかが分かる。しかし、本人にとって必要かは分からない。とのお話でご講演が始まりました。思い込みで支援をする人が多い。そのリスクを減らすために包括的な個別の評価に基づいて、支援は提供されるべきとのことでした。

診断と評価 <診断>・自閉症かどうかを鑑別、自閉症の特性を確認する。
<評価>・一人ひとりの特徴や状態を把握する。

評価アプローチの比較

フォーマルな評価	検査など
インフォーマルな評価	日常生活の場面。可能性（できそうなこと）つまり、芽生えスキルに着目することが大事である。
全般的な評価	休み時間などの観察（例えば、匂いを嗅ぐ。手をひらひらする。）ネガティブな印象。刺激に翻弄されている様子を見とる。

※さまざまな評価アプローチを組み合わせ、それらを統合することが大切である。

インフォーマルな評価の注意点

- ・取り組んだ時の様子をよく見る。
- ・できないこと、苦手なこと、嫌なことを無理にさせない。
- ・課題の意味をよく理解しているか。

<例>「ハブラシを片付けて下さい。」→ 当事者は、歯磨きをする
・できていないのか、分かっていないのか、をよく見極める。
・課題に対しての向き合い方はどうか。

- ・日常生活場面や学習場面において、直接観察や聞き取りを通して、常に評価する。
- ・場合によっては、様々な活動や課題を支援者が意図的に設定し、本人の取り組みの様子を観察する。

観察のポイント

- 学習スタイル…取り組んでいる時の“くせ”を見ておくこと
- スキル…P 一人でできる → 教える必要はない。自立。
E 芽生え（ほぼできている。完璧ではない。）
F 不合格（そのことを行おうとしない。）
芽生えをターゲットにすると、支援者も取り組みやすい。
- 興味関心、好き嫌い… <例>ジグソーパズルにしても、興味のあるものを選ぶ。
- 学習態度…課題への構え、前向きさ、受け入れの度合い
→「できない。」とは、嫌なこと、分からないこと。

記録の取り方 …客観的な記録を。実際の動き（言葉遣い、動作）、表情や視線などを記録する。
途中修正しない。観察、評価に専念する。

<例>楽しそう。などと、抽象的な表現ではなく実際の様子を記録する。

【実践】 ビデオ映像を見て記録を取る。

○評価の時は、よく見ること。制止しないこと。

評価のまとめ

※ビデオから分かったこと

学習スタイル…見て理解することは強い。言葉、文章は難しい。同じことを繰り返す傾向がある。パターン化する。自分なりの理解で課題に取り組む。支援者の期待を察するのは難しい。間違いが重なってくると、イライラしている。

スキル…はさみは、使える。きれいに紙を折る。文字を書いたり、計算したりすることができる。

興味関心…どの課題にも前向きに取り組む。やり遂げることに達成感がある様子。表出コミュニケーション…自発的なコミュニケーションは乏しい。

課題分析

・活動の始まりから終わりまでを、小さな行動単位（ステップ）に分けて、時系列に並べて記述する。どこが難しいのか、どこを手直しすればいいかを明らかにする。

◎さまざまな視点で、総合的に捉えることが大事。

評価を個別プログラムに反映させる

・得意なことを活かし、苦手なことをカバーする。

・支援者が、その人のことと、その人を取り巻く状況や関係者のことをよく知っていることが大事である。

◎PLAN-DO-SEEを繰り返す。より良いものへ（目標に近づく）

★計画的に支援を進めていく。

→本人・家族にとって意味のある支援を継続していくこと、そして、ロングライフサポートである。そして、本人・家族（周囲）にとって最も重要なテーマから取り組む。

自閉症の人が示すパフォーマンスや態度は、周囲の関わり方や環境条件・課題設定などに影響を受けやすい。これらのことに留意しながら、今後も支援者として関わっていきたいと思いました。

令和3年度 千葉県TEACCHプログラム研究会 第4回連続セミナーのお知らせ

配信期間 : 10月1日(金)～ 10月24日(日)
視聴会日時: 10月2日(土) 14:00～15:30 (受付開始 13:45～)
視聴会場 : 千葉県教育会館203会議室
演 題 : 「セクシャリティの適切な学習のために必要なこと～学んで慣れて伝える～」
講 師 : 平木 真由美 氏(京都市立総合支援学校支援部医療福祉コーディネーター)

講師: 平木 真由美先生のご紹介

川崎医療福祉大学医療福祉学研究所を修了され、2017年より、京都市立総合支援学校で医療福祉コーディネーターとして勤務されています。予てから“人間と性”教育研究協議会でご活躍され、現在は、京都サークル代表としてますますご活躍中。看護師、養護教諭、社会福祉士、自閉症スペクトラム支援士の資格も取得されています。

令和3年度 千葉県TEACCHプログラム研究会 第5回連続セミナーのお知らせ

配信期間: 12月3日(金)～ 12月26日(日)
演 題 : 「行動上の課題への対応」
講 師 : 田熊 立 氏(社会福祉法人菜の花会
千葉県発達障害者支援センターCAS地域支援マネジャー)
視聴日時: 12月4日(土) 14:00～15:30
視聴会場: 千葉県教育会館203会議室

申込締切日: 11月26日(金)

【編集後記】 コロナ禍の今、私たちの生活様式が変わりつつあります。「今までのことはできない。同じようにはできない。」と考へ、「どうしたらできるようになるのか。形を変えて今までのことを実行する。」そんな現状に疲労する毎日です。それ以上に、障害をかかえる皆さんは、ずっと苦勞、工夫をしながら生活しているのだなと考へさせられます。誰もが、苦勞することなく、楽に生活できる社会を目指したいものです。
(島尾)